

令和8(2026)年度 年間授業計画

教科・科目		国語 古典探究		2 単位						
対象学年・組		2年生 文系(含む特進)		文系 必履修						
教科書(出版社)		精選古典探究(大修館書店)								
学習目標【観点別】		適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高める。【知・技】								
		思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、能動的に表現する能力を育成する。【思・判・表】								
		国語力の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。【態】								
学期	予定時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	話 開	書 読	知	思	態	
1	前半	12 説話	・話の舞台や登場人物の行動に注意し、話の展開を把握する。 ・和歌の文化的背景と人物の行動や心情を読み取る。 ・古典に対して興味をもつ。	【知識・技能】古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】平安時代の貴族文化をふまえて、登場人物の境遇や心情を理解しようとしている。	○	○	○	○	○	○
	後半	12 随筆	・歌物語の特徴、和歌と地の文の関係や表現技巧を理解し味読する。 ・古典作品の再創造としてのパロディ(もじり)の面白さに触れる。 ・登場人物の行動や心情から、当時の人の生き方や考え方を理解する。	【知識・技能】古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】作品の文学史的な位置づけを理解し、登場人物の心情をつかもうとしている。	○	○	○	○	○	○
2	前半	16 日記	・中世的無常観にもとづく、作者のものの見方、感じ方、考え方を理解し、現代人の考え方と比較する。	【知識・技能】古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・作者のものの見方を理解している。	○	○	○	○	○	○
	後半	16 物語(一)	・登場人物の人間関係を正確につかみ、それぞれの心理の動きをたどる。 ・物語中の人物描写などを味わい、作品をとりまく時代の背景、文化的環境についての理解を深める。	【知識・技能】古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の種類をふまえて、古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】平安時代の貴族文化をふまえて、登場人物の境遇や心情を理解しようとしている。	○	○	○	○	○	○
3	14	思想	・儒家の思想を理解する。 ・師弟のあり方や孔子の人柄について考える。 ・『論語』の思想を深く読み取り、自己の考え方を豊かにする。 ・性善・性悪をめぐる古代思想家の考え方を理解し、人間観形成を助ける。 ・道家の思想を理解する。	【知識・技能】古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 【思考・判断・表現】「読むこと」において、文章の種類をふまえて、構成や展開などを的確にとらえている。 【主体的に学習に取り組む態度】近体詩について興味をもち、日本の言語文化に与えた影響について理解しようとしている。	○	○	○	○	○	○
評価の観点(評価基準)		【知識・技能】古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辭などの表現の特色について理解を深めている。 【思考・判断・表現】「読むこと」において古典特有の表現に注意して内容を的確にとらえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 【主体的に取り組む態度】古典文学と現代のさまざまな作品とのつながりを理解しようとしている。								
評価の方法		・観察・ワークシート・小テスト・定期考査								
学習の手引き		○毎回の授業を大切に、知識を正確に身に付ける。 ○古典文学に親しみ、国語に関する世界を広げようという意識を持つ。 ○知識から得られた発想や思考を積極的に発表する態度を育てる。								
授業担当者		辻 朗・曾我 綾乃								

令和8(2026)年度 年間授業計画									
教科・科目		国語 論理国語		2 単位					
対象学年・組		2年生(含む特進)		必履修					
教科書(出版社)		新編 論理国語(大修館書店)							
学習目標【観点別】		実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。【知識・技能】 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考・判断・表現】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【主体的に学習に取り組む態度】							
学期	予定時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	話 聞	書 読	知	思	態
1	前半	12 抽象的な論と具体例のつながりを意識して筆者の意見を読み取る。 ウサギの耳はなぜ長い？ 記号的メディアと物理的メディア	・本文中に登場する漢字や語句を理解する。 ・具体例の働きを的確にとらえ、具体と抽象の関係についての理解を深める。 ・文章の構成や展開に注目しながら、筆者の主張を読み取る。	【知・技】論証したり学習の基礎を学んだりするために必要な語感を磨き語彙を豊かにしている。【(1)イ】 【思・判・表】文章の内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、要旨を把握している。【B(1)ア】 【主】論理的に考える力を伸ばそうとしている。	○	○	○	○	○
	後半	12 論の対比構造を読み取って筆者の主張の理解へつなげる。 対話の精神 デジタル地図から見える世界	・本文中に登場する漢字や語句を理解する。 ・筆者の主張と、それを支える根拠の役割を的確にとらえる。 ・文章の構成や論理の展開に注意しながら、要旨を把握する。	【知・技】情報と情報との関係について理解を深めている。【(2)ア】 【思・判・表】内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしなが重要旨を把握している。【B(1)ア】 【主】筆者の考えを読み取ることに興味をもち、主張と根拠の関係をとらえようとしている。	○	○	○	○	○
2	前半	14 文中の主張を確実に読み取り、根拠とつなげて理解する。 人工の自然-科学技術時代の今を生きるために「考える輩」であり続ける	・本文中に登場する漢字や語句を理解する。 ・筆者の問題意識をとらえ、主張を読み取る。 ・読み取ったことをふまえて、自分の思いや考えを深める。	【知・技】自らの考えを論証するために必要な語句の働きを理解し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。【(1)イ】 【思・判・表】論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしなが重要旨を把握している。【B(1)ア】 【主】実生活でのさまざまな問いに対して積極的に考えようとしている。	○	○	○	○	○
	後半	14 資料と論のつながりを読み解き、文章の理解へつなげる。 量の時代から質の時代へ 若者の「海外旅行離れ」は本当か？	・本文中に登場する漢字や語句を理解する。 ・統計資料が論の展開にどうつながっているかを的確に読み取る。 ・資料を扱う際に気を付ける点を理解する。	【知・技】文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。【(1)エ】 【思・判・表】主張を支える根拠や結論を導く根拠を批判的に検討し、内容を解釈している。【B(1)ウ】 【主】資料の取り扱いについて理解を深めようとしている。	○	○	○	○	○
3	18	さまざまな情報を比較しながら伝えたいことを読み取る。 紙の本はなくならない 情報化と紙の本のゆくえ	・本文中に登場する漢字や語句を理解する。 ・異なる立場の文章を比べて読み、考えを深める。 ・対比の役割を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。	【知・技】必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。【(1)イ】 【思・判・表】根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、解釈している。【B(1)ウ】 【主】情報を的確に比較・整理しながら、筆者の考えを読み取るようとしている。	○	○	○	○	○
評価の観点(評価基準)	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。【知・技】 論理的、批判的、創造的に考える力を伸ばしている。【思・判・表】 言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度で言葉の持つ価値を認識し、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。【主】								
評価の方法	観察、ワークシート、小テスト、ワーク、定期考査								
学習の手引き	○日々の学習を大切に、授業に積極的に参加すること。 ○生涯にわたり必要な国語の知識・技能を身に付け、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 ○他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。								
授業担当者	辻 朗・曾我 綾乃								

令和8(2026)年度		年間授業計画		2 単位					
教科・科目		国語 文学国語		2 単位					
対象学年・組		2年生 文系(含む特進)		文系 必履修					
教科書(出版社)		新編 文学国語(大修館書店)							
学習目標【観点別】		<p>言葉がもつ価値への認識を深め、必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。【知識・技能】</p> <p>文学的な文章に親しみ、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養い、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考・判断・表現】</p> <p>主体的・対話的で深い学びをとおして、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。【主体的に学習に取り組む態度】</p>							
学期	予定時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	話 聞	書 読	知	思	態
1	前半	12 1 明日をひらく そとみとなかみ 2 小説を楽しむ(一) 晴れた空の下で	・筆者のいう「外側」と「内側」を理解し、外側と内側の関係について考える。 ・本文の描写や言葉遣いから「わし」の性格や心情をとらえる。	【知・技】・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。[(1)イ] 【思・判・表】・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。[B(1)イ] 【主】・登場人物の心情を読み取ることに興味をもち、作品の構造を理解しようとしている。	○	○	◎	◎	◎
	後半	12 1 明日をひらく 少なくとも最後まで歩 かなかつた 2 小説を楽しむ(一) ナイン	・筆者の考えと比較しながら、自分の生き方について考えを深める。 ・場面設定の仕方を通して登場人物の心情を考える。	【知・技】・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。[(1)ア] 【思・判・表】・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。[B(1)ア] 【主】・筆者の考え方と比較しながら、自分の生き方について考えを深めようとしている。	○	○	◎	◎	◎
2	前半	14 4 名作を読む(一) 山月記 5 社会に生きる 神去なあなあ日常	・登場人物の生き方から、自分自身の生き方に関する考えを深める。 ・仕事や自然に対する描写を読み取り、ものの見方、感じ方を豊かにする。	【知・技】・我が国の言語文化の特質について理解を深めている。[(2)ア] 【思・判・表】・他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。[B(1)ウ] 【主】・作品に興味をもち、小説の文体や登場人物の心情について理解を深めようとしている。	○	○	◎	◎	◎
	後半	14 2 小説を楽しむ(二) おぼろ月 5 社会に生きる 靴	・小説を読む楽しさを味わう。 ・この話に込められた寓意を読み取り、考えを深める。	【知・技】・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。[(2)イ] 【思・判・表】・文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。[B(1)エ] 【主】・作品に興味をもち、この話に込められた寓意を読み取るうしたり考えを深めたりしようとしている。	○	○	◎	◎	◎
3	18	6 表現を味わう 身内ほど厄介なものはない 柿 ぼくのお母さん 読書の広場 さくら日和	・さまざまな文章を読み、構成や表現の工夫を読み取る。 ・作品の構造や語り手の視点を意識しながら、作品を味わう。	【知・技】・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。[(1)ア] 【思・判・表】・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。[B(1)ア] 【主】・本文の内容を解釈し、自分とは異なる文化をもつ人とコミュニケーションをとるにあたり、どのような配慮が必要か考えようとしている。	○	○	◎	◎	◎
評価の観点(評価基準)	言葉がもつ価値への認識を深め、必要な国語の知識や技能を身に付けている。【知・技】文学的な文章に親しみ、共感したり想像したりする力を伸ばし、創造的に考える力を養っている。【思・判・表】主体的・対話的で深い学びをとおして、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。【主】								
評価の方法	観察、ワークシート、小テスト、レポート、定期考査								
学習の手引き	○日々の学習を大切にし、授業に積極的に参加すること。 ○生涯にわたり必要な国語の知識・技能を身に付け、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 ○他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。								
授業担当者	花嶋 幸子								

令和8(2026)年度 年間授業計画							
教科・科目		地理歴史 日本史総合		2 単位			
対象学年・組		2年生 文系		必修選択			
教科書(出版社)		日本史探究 高校日本史(山川出版社)		図説日本史通覧(帝国書院)			
学習目標【観点別】		我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身につけるようにする。(知識・技能) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義・概念を活用し、多面的・多角的に考察する力、効果的に説明する力、広い視野を持って議論する力を養う。(思考・判断・表現力) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象に触れることで、日本国民としての自覚を持たせるとともに、他国の歴史も尊重することの大切さを理解させる。(主体的に学習に取り組む態度)					
学期	予定時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態
1	前半	12 原始	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文化のあけぼの ・古墳とヤマト政権 	発掘調査成果から得られる情報を収集して、理解している。 文献資料から、多角的に考察した結果を根拠を示して表現している。 弥生文化の特色や推古朝の政治、飛鳥文化の展開についての課題を主体的に追究しようとしている。	○	○	○
	後半	12 古代	<ul style="list-style-type: none"> ・律令国家の形成 ・貴族政治の展開 	遣唐使の派遣に着目し、律令体制の観点から摂関政治を理解している。 諸勢力と土地制度を関連づけながら、摂関政治とその後の展開を考察し、根拠を示して表現している。 律令体制の課題や、摂関政治期の特色を明らかにしようとしている。	○	○	○
2	前半	14 中世	<ul style="list-style-type: none"> ・院政と武士の進出 ・武家政権の成立 ・武家社会の成長 	源平の争乱から執権政治までの過程、幕府滅亡後の政治権力の推移を、諸資料から情報を収集して理解している。 東アジアの国際情勢の変化について、多面的・多角的に考察し、表現している。 鎌倉時代を通じた武家の支配の特質について主体的に追究しようとしている。	○	○	○
	後半	14 近世・近代	<ul style="list-style-type: none"> ・近世の幕開け ・幕藩体制の成立と展開 ・幕藩体制の動揺 ・近世から近代へ ・近代国家の成立 	諸資料を読み取り、江戸時代の社会、文明開化の風潮について、理解している。 幕藩体制の特質、欧米の思想の影響を多面的・多角的に考察し、表現している。 幕藩体制が確立する画期、歴史の展開における画期についての課題を見出し、主体的に追究しようとしている。	○	○	○
3	18	近現代	<ul style="list-style-type: none"> ・近代国家の展開と国際関係 ・近代の産業と生活 ・恐慌と第二次世界大戦 ・現代の世界と日本 	第二次世界大戦、55年体制崩壊、バブル経済、平成不況について理解している。 全体主義、冷戦後について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 第二次世界大戦後の日本の役割について、課題を見出して主体的に追究しようとしている。	○	○	○
評価の観点(評価基準)		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な歴史事項を理解しているか。 ・ワークシートで自分の考えや疑問点を適切に表現することができているか。 ・授業への参加が意欲的で、積極的に発言をしているか。 					
評価の方法		<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査及び、単元の小テストを中心に評価する。 ・授業態度、提出物への取り組み、出席状況も考慮する。 					
学習の手引き		<ul style="list-style-type: none"> ・現代的な社会の問題がどのような要因で生まれたのか、その起源を探る問いに取り組む。 ・現代的な社会の問題を解決するための視点として、歴史から学び、考える習慣を身につける。 					
授業担当者		鈴木多恵					

令和8(2026)年度		年間授業計画					
教科・科目	地理歴史	世界史総合	2 単位				
対象学年・組	2年生 文系(含む特進)		必修選択				
教科書(出版社)	高校世界史(山川出版社)						
学習目標【観点別】	<p>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けるようにする。【知・理】</p> <p>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、多面的・多角的に考察したり、歴史的に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察したことを説明したり、議論したりする力を養う。【思・判・表】</p> <p>世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、主体的に探究しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本人としての自覚、自国と他国の歴史や文化を尊重する心を育む。【態度】</p>						
学期	予定時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態
1	前半	12 文明の成立と古代文明の特質 西アジアと地中海世界周辺の国家形成	<ul style="list-style-type: none"> 古代オリエント 南アジアの古代文明 中国の古代文明 南北アメリカ文明 イラン諸国家の興亡とイラン文明 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史の基本知識を理解しているかどうか。 対話的な学びを通して、主体的に歴史を考察しているかどうか。 ★世界に誕生した古代文明の特色について、比較・考察し探究する。 	○	○	○
	後半	12 西アジアと地中海世界周辺の国家形成	<ul style="list-style-type: none"> イラン諸国家の興亡とイラン文明 ギリシア世界 ローマと地中海支配 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史の基本知識を理解しているかどうか。 対話的な学びを通して、主体的に歴史を考察しているかどうか。 ★イラン文明やギリシア・ローマなど地中海世界の特色について、比較・考察し探究する。 	○	○	○
2	前半	14 西アジアと地中海世界周辺の国家形成 南アジア世界と東南アジア世界の展開 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	<ul style="list-style-type: none"> キリスト教の成立と発展 仏教の成立と南アジアの統一国家 アラブの大征服とカリフ政権の成立 ヨーロッパ世界の形成 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史の基本知識を理解しているかどうか。 対話的な学びを通して、主体的に歴史を考察しているかどうか。 ★世界三大宗教の特色について、比較・考察し、その後の地域にもたらした影響について調べ探究する。 	○	○	○
	後半	14 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 ヨーロッパ世界の変容と展開	<ul style="list-style-type: none"> イスラーム教の諸地域への伝播 西アジアの動向 西ヨーロッパの封建社会 東ヨーロッパ世界 西ヨーロッパ世界の変容 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史の基本知識を理解しているかどうか。 対話的な学びを通して、主体的に歴史を考察しているかどうか。 ★地中海を挟み拡大するイスラーム世界とキリスト教世界の歴史を比較・考察し探究する。 	○	○	○
3	18	中央ユーラシアと東アジア世界 大交易・大交流の時代	<ul style="list-style-type: none"> 秦・漢帝国 北方民族の活動と中国の分裂 東アジア文化圏の形成 アジア交易世界の興隆 ヨーロッパの海洋進出、アメリカ大陸の変容 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史の基本知識を理解しているかどうか。 対話的な学びを通して、主体的に歴史を考察しているかどうか。 ★交易に「世界の一体化」が進む各地の状況について、比較・考察し探究する。 	○	○	○
評価の観点(評価基準)	<p>○ある特定の地域を世紀の世界各地の状況を把握し、それまでの学習内容を整理する。【知・理】【態度】</p> <p>○整理された知識と、その後に学ぶ知識が結びつき、世界史の大きな流れの把握・理解を促す。【思・判・表】【態度】</p>						
評価の方法	定期考査・提出課題・授業態度・レポート提出						
学習の手引き	<p>○日々の学習を大切に、授業に積極的に参加する。</p> <p>○世界史上の出来事を通して現代社会の諸問題について主体的に考察する。</p>						
授業担当者	赤澤 秀幸						

令和8(2026)年度		年間授業計画					
教科・科目	公民	公共	2 単位				
対象学年・組	2年生		必履修				
教科書 (出版社)	詳述公共新訂版(実教出版社)						
学習目標 【観点別】	<p>考察・選択・判断のための手掛かりとなる概念・理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。【知識及び技能】</p> <p>現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。【思考・判断・表現力】</p> <p>現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。【主体的に学習に取り組む態度】</p>						
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態
1	前半	12 社会を作る私たち 人間としてよく生きる	<ul style="list-style-type: none"> ○生涯における青年期の意義 ○自己形成の課題(1) ○自己形成の課題(2) ○古代ギリシアの人間観 	<p>青年期の意義や特徴への深い理解を通して、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。</p> <p>よく生きること、幸福に生きることについて、多面的に考察し、適切に表現している。</p>	○	○	○
	後半	12 民主社会の倫理 民主国家における基本原理	<ul style="list-style-type: none"> ○自由・権利と責任・義務 ○民主政治の成立 ○民主政治の基本原則 ○日本国憲法の基本的性格 	<p>個人の自由と他者の自由の衝突といった問題について協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。</p> <p>多面的・多角的な考察や深い理解を通して、民主主義、法の支配といった公共的な空間における基本的な原理について理解しようとしている。</p>	○	○	○
2	前半	14 日本の政治機構と政治参加	<ul style="list-style-type: none"> ○政治機構と国会 ○行政権と行政機能の拡大 ○公正な裁判の保障 ○選挙制度 ○世論と政治参加 	<p>よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、司法参加の意義、政治参加と公正な世論の形成、地方自治などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	○	○	○
	後半	14 現代の経済社会	<ul style="list-style-type: none"> ○経済主体と経済活動の意義 ○経済社会の変容 ○金融の役割 ○財政の役割と租税 ○日本の財政の課題 	<p>多面的・多角的な考察や深い理解を通して、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	○	○	○
3	18	日本経済の特質と国民生活	<ul style="list-style-type: none"> ○消費者問題 ○労働問題と労働者の権利 ○今日の労働問題 ○社会保障の役割 ○社会保障制度の課題 	<p>多面的・多角的な考察や深い理解を通して、多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化などに関わる現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。</p>	○	○	○
評価の観点 (評価基準)	<ul style="list-style-type: none"> ○授業や調査、発表、課題について、主体的に取り組んでいるか。 ○多面的・多角的なものの見方・考え方を身に付けられたか。(基礎・基本事項の習得) ○社会的事象から考察したことを自分の言葉で論理的に人に伝えることができるか。 						
評価の方法	定期考査、小テスト、プレゼンテーション、授業態度、提出物等により評価						
学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> ○授業に対して、自ら学ぶ姿勢と他者から学ぶ姿勢を大切にし、意欲的・積極的に参加する。 ○国内外を問わず、日々の出来事に関心をもち、公共的な視点で事象を捉えるようにする。 ○主権者・成人としての自覚や責任について、様々な事象から考える。 						
授業担当者	岡田 博彰						

令和8(2028)年度 年間授業計画										
教科・科目		数学		数学Ⅱ		4		単位		
対象学年・組		2年生 理系(含む特進)				必修選択				
教科書 (出版社)		高等学校 数学Ⅱ (数研出版)				・3TRIAL 数学Ⅱ 完成ノート (数研出版)				
学習目標 【観点別】		1. 基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 2. 物事を数学的に考察し処理する技能・能力を高める。 3. 数学的な見方や考え方を積極的に活用する態度を養う。								
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標		指導項目・内容		評価規準		知	思	態
1	前半	24	第1章 式と証明	1. いろいろな式の計算 2. 等式・不等式の証明	・式の計算を体系的に理解し、正しく計算を行う能力を獲得する。 ・等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。			○	○	○
	後半	24	第2章 複素数と方程式 第3章 図形と方程式	1. 複素数と2次方程式の解 2. 高次方程式 1. 点と直線 2. 円 3. 軌跡と領域	・複素数を理解し、その計算を学ぶ。 ・2次方程式を解くことや解と係数の関係を学ぶ。 ・因数定理を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 ・座標概念を理解する。 ・1次方程式のグラフが座標平面上の直線であることを理解する。 ・2直線の平行及び垂直条件を理解する。 ・円の方程式について理解する。			○	○	○
2	前半	28	第4章 三角関数	1. 三角関数 2. 加法定理	・角度を拡張し弧度法を理解する。 ・三角関数の性質を理解する。 ・三角関数を含む方程式を取り上げ、また加法定理を理解する。			○	○	○
	後半	28	第5章 指数関数 と対数関数	1. 指数関数 2. 対数関数	・指数の拡張とそれぞれについて指数法則が成立つことを理解する。 ・対数を理解し、対数の性質について学ぶ。			○	○	○
3	36	第6章 微分法と積分法	1. 微分係数と導関数 2. 関数の値の変化 3. 積分法	・平均変化率と導関数を理解する。 ・接線の傾きを学び、関数の増減を理解しグラフを描く。 ・不定積分および定積分について理解する。 ・定積分の面積への応用を学ぶ。			○	○	○	
評価の観点 (評価基準)		・学習目標に対する到達度を評価する。・学習状態を評価する。								
評価の方法		定期考査・小テスト・課題・授業態度・出席状況など								
学習の手引き		<ul style="list-style-type: none"> 定義や概念を理解する。 定理・公式を理解し、その利用方法を整理する。 演習問題では、方針を立て、取り組む姿勢を身に付ける。 								
授業担当者		菅野 未来								

令和8(2026)年度 年間授業計画									
教科・科目		数学 数学B			2 単位				
対象学年・組		2年生 理系(含む特進)			必修選択				
教科書 (出版社)		高等学校 数学B (数研出版)			3 TRIAL 数学B 完成ノート (数研出版)				
学習目標 【観点別】		1. 基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 2. 物事を数学的に考察し処理する技能・能力を高める。 3. 数学的な見方や考え方を積極的に活用する態度を養う。							
学期	予 定 時 数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態		
1	前半	12 第1章 数列	1. 等差数列と等比数列 2. いろいろな数列	・数列の意味を体系的に理解し、正しく計算を行う能力を獲得する。 ・数列の和の公式が成り立つことを証明できるようにする。	○	○	○		
	後半	12 第1章 数列	2. いろいろな数列 3. 漸化式と数学的帰納法	・漸化式を理解し、その計算を学ぶ。 ・群数列を解くことができる。 ・数列の和から一般項を求めることができるようにする。	○	○	○		
2	前半	14 第2章 統計的な推測	1. 確率分布	・確率変数の意味を理解する。 ・期待値や分散を求められるようにする。 ・二項分布の意味を理解し問題を解けるようにする。	○	○	○		
	後半	14 第2章 統計的な推測	1. 確率分布 2. 統計的な推測	・正規分布の意味を理解し、問題を解けるようにする。 ・母集団や標本などの意味を正しく理解する。	○	○	○		
3	18	第2章 統計的な推測	2. 統計的な推測	・標本平均の分布を理解する。 ・仮説検定の用いて、事象の判断をできるようにする。	○	○	○		
評価の観点 (評価基準)		・学習目標に対する到達度を評価する。・学習状態を評価する。							
評価の方法		定期考査・小テスト・課題・授業態度・出席状況など							
学習の手引き		・定義や概念を理解する。 ・定理・公式を理解し、その利用方法を整理する。 ・演習問題では、方針を立て、取り組む姿勢を身に付ける。							
授業担当者		宇田川 正寛							

令和8(2026)年度		年間授業計画						
教科・科目	数学	文系数学	2 単位					
対象学年・組	2年生 文系(含む特進)		必修選択					
教科書 (出版社)	高等学校 数学 I (数研出版)		基本と演習テーマ 数学 I 完成ノート (数研出版)					
学習目標 【観点別】	<p>1. 基礎・基本を確実に身に付けさせ、基礎的な知識・技能を習得させる。【知識・技能】</p> <p>2. 生徒の主体的・創造的な学習能力の育成を図り、生徒が学習の達成感を実感することが出来るようにする。【思考・判断・表現】</p> <p>3. 生徒の数学に対する興味・関心を深め、数学的な見方や考え方の良さや有用性を実感できるようにする。【主体的に学習に取り組む態度】</p>							
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	能	
1	前半	12	式の計算 実数	<p>1. 整式の加法と減法</p> <p>2. 整式の乗法</p> <p>3. 因数分解</p> <p>4. 実数</p> <p>5. 根号を含む式の計算</p>	展開・因数分解などの基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ平方根などの応用問題を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。	○	○	○
	後半	12	1次不等式 集合と命題	<p>6. 不等式の性質</p> <p>7. 1次不等式</p> <p>8. 絶対値を含む方程式・不等式</p> <p>9. 集合</p> <p>10. 命題と条件</p> <p>11. 命題とその逆・対偶・裏</p> <p>12. 命題と証明</p>	不等式の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ命題などの応用的な問題を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。	○	○	○
2	前半	14	二次関数とグラフ 二次関数の値の変化	<p>1. 関数とグラフ</p> <p>2. 2次関数のグラフ</p> <p>3. 2次関数の最大・最小</p> <p>4. 2次関数の決定</p>	二次関数の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ二次関数の最大最小などを求めることができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。	○	○	○
	後半	14	二次方程式と二次不等式	<p>5. 2次方程式</p> <p>6. 2次関数のグラフと x 軸の位置関係</p> <p>7. 2次不等式</p>	二次方程式の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ二次不等式を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。	○	○	○
3	18	図形と計量 データと分析	<p>1. 三角比</p> <p>2. 三角比の相互関係</p> <p>3. 三角比の拡張</p> <p>4. 正弦定理</p> <p>5. 余弦定理</p> <p>6. 正弦定理・余弦定理の応用</p> <p>7. 三角形の面積</p> <p>8. 空間図形への応用</p> <p>9. データの分析</p>	三角比の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえデータから分析することができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。	○	○	○	
評価の観点 (評価基準)	教科書の基本的な問題を解くことができる。 数学的な考え方を踏まえ応用問題を解くことができる。 問題集の提出や小テストを解くことができる。							
評価の方法	定期考査、授業態度、提出物等により評価							
学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・定義や概念を理解する。 ・定理・公式を理解し、その利用方法を整理する。 ・演習問題では、方針を立て、取り組む姿勢を身に付ける。 							
授業担当者	宇田川 正寛, 菅野 未来							

令和8(2026)年度 年間授業計画								
教科・科目		理科 物理基礎		2 単位				
対象学年・組		2年生 理系(含む特進)		理系 必履修				
教科書(出版社)		改訂版 新編 物理基礎(数研出版)						
学習目標【観点別】		物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究しようとする態度を養い、必要な知識や技能を身に付けるようにする。						
学期	予定時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	
1	前半	12	運動の表し方	<ul style="list-style-type: none"> 運動の表し方 直線運動の加速度 物体の落下運動 	<ul style="list-style-type: none"> 運動の表し方について、直線運動を中心に理解する 速度が変化する物体の直線運動に関して、速度と時間との関係を見いだして理解する 物体が落下する際の運動の特徴を理解する 	○	○	○
	後半	12	様々な力とその働き	<ul style="list-style-type: none"> 様々な力 力のつり合い 運動の法則 	<ul style="list-style-type: none"> 物体に様々な力が働くことを理解する 物体に働く力のつり合いを理解する 物体の質量、物体に働く力、物体に生じる加速度の関係を理解し、運動の三法則を理解する 	○	○	○
2	前半	14	力学的エネルギー 熱	<ul style="list-style-type: none"> 運動エネルギーと位置エネルギー 力学的エネルギーの保存 熱と温度 熱の利用 	<ul style="list-style-type: none"> 運動エネルギーと位置エネルギーについて、仕事と関連付けて理解する 力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて理解する 熱と温度について、原子や分子の熱運動の観点から理解する 熱の移動及び熱と仕事の変換について理解する 	○	○	○
	後半	14	波	<ul style="list-style-type: none"> 波の性質 音と振動 	<ul style="list-style-type: none"> 波の性質について、直線状に伝わる場合を中心に理解する 気柱の共鳴と音源の振動数を関連付けて理解し、弦の振動、音波の性質を理解する 	○	○	○
3	18	電気 エネルギーとその利用	<ul style="list-style-type: none"> 物質と電気抵抗 電気の利用 エネルギーとその利用 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ物質からなる導体でも長さや断面積によって電気抵抗が異なることを理解する。 発電、送電及び電気の利用について、基本的な仕組みを理解する。 人類が利用可能なエネルギーの特性や利用などについて理解する。 	○	○	○	
評価の観点(評価基準)	<ul style="list-style-type: none"> ○物理的なものの見方・考え方を身に付けられたか ○物理現象を自分の言葉で論理的に人に伝えることができるか 							
評価の方法	定期考査、授業での取り組み、提出物等により評価							
学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> ○日々の学習を大切に、授業に積極的に参加すること ○疑問を持ち、観察し、考え、議論すること 							
授業担当者	田代 佑太							

令和8(2026)年度 年間授業計画

教科・科目		理科 地学基礎		2 単位			
対象学年・組		2年生 文系(含む特進)		必履修			
教科書(出版社)		高等学校 地学基礎 (第一学習社)		二訂版ニューステージ 新地学図表 (浜島書店) 新課程版社パルノート地学基礎 (第一学習社)			
学習目標【観点別】		生きている地球の活動と地球環境の変遷、自然災害、宇宙に関わる物事事象について、人間との関わりを含めて、観察・実験・実習等を通して理解する。【知識及び技能】 自然の営みと地球環境、宇宙に関する物事事象について、論理的に考察し、互いに複雑に関連し合っていることを理解する。考察したことを表現できる。【思考力判断力表現力等】 基本的な概念や原理・原則の理解を深め、地球科学的に考察する能力と態度を身につけ、科学的な自然観を習得する。【学びに向かう力、人間性等】					
学期	予定時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態
1	前半	宇宙の構成 太陽(恒星) 太陽系の中の地球	宇宙の始まり/宇宙の広がり と銀河の分布/宇宙の大規模構造 /太陽の組成と構造/太陽の誕生 と将来/太陽/恒星の一生	宇宙の広がり と銀河の分布について理解する。 恒星としての太陽の仕組と進化について考える。	○	○	○
	後半	太陽系の中の地球 地球環境と生物界の変遷①	地球惑星と木星型惑星/生命の惑星・地球/原子地球の誕生～ 大気組成の変遷(先カンブリア時代～ 古生代)/地球環境と生物界の変遷(古生代)	地球型惑星と木星型惑星を比較し 原始地球の環境について考える。 地球型惑星の特徴を比較し、過去の地球の環境を 考える。生命変遷の歴史を地球環境 変遷の歴史と関連付けて理解する。 古生代末の大量絶滅について理解する。	○	○	○
2	前半	移り変わる地球 地層や岩石と地質構造 地球環境と生物界の変遷② 地球環境と生物界の変遷③	地層の形成/堆積岩の種類/地殻の 変動/変成岩と編成作用/地球環境 と生物界の変遷(中生代)/地球環境 と生物界の変遷(新生代)/氷期と 間氷期/最終氷期の環境変遷	地層と堆積岩の種類、断層などの地質構造、 変成岩、地球の歴史とその調べ方について理解する。 中生代末の環境変化と大量絶滅について理解する。 新生代の環境変化について理解する。 (とくに第四紀末の最終氷期の環境変遷について、 身近な事象として理解する。)	○	○	○
	後半	活動する地球 地球の姿 地震とそのしくみ	地球の形と大きさの測定/地球内部の 層構造/プレートの運動/大山脈の形成/ 地震発生のメカニズム/海溝型地震/ 活断層型地震/地震による災害と防災	地球の形と大きさ、内部構造と成り立ちについて知る。 地震火山山脈の仕組を理解する。 地震現象を防災と関連付けて理解する。 津波について理解する。	○	○	○
3	18	火山活動と火成岩 大気と海洋の運動 地球の環境 日本の季節変化 日本の自然環境と災害	火山ができる場所/火山の地形/火山噴火の しくみ/火山活動の多様性/火山災害と ハザードマップ/火成岩の種類と観察/ 火成岩の造岩鉱物/大気の大気圏の特徴/ 地球の熱収支/地球の温暖化/日本の季節 変化/気象災害と防災/エルニーニョ現象	火山の仕組と噴火の多様性を理解する。 火山活動を防災と関連付けて理解する。 火成岩と造岩鉱物・結晶構造を知る。 大気大循環の仕組と風について理解する。 大気と海洋の構造と仕組を成り立ちから考える。 熱収支の仕組を理解する。 日本の季節と気象災害について理解する。 アルベドと温暖化寒冷化の仕組について理解する。	○	○	○
評価の観点(評価基準)	①自然現象に興味関心を持ち、そのしくみについて科学的に理解しようとしたか。 ②科学的なものの見方・考え方を身につけられたか。 ③自然現象のしくみについて自分の言葉で他の人に伝えることができるか。						
評価の方法	定期考査、授業態度、提出物等により総合的に評価する。						
学習の手引き	①日常の授業に真剣に取り組む、理解しようとする(授業の復習をしよう!) ②日ごろから自然科学に興味を持つ(新聞やニュースにも注目しよう!) ③言葉の暗記ではなく「なぜだろう?」という疑問を持って、自然を観察する。 ④しくみを理解しようとする。						
授業担当者	那賀俊明						

令和8(2026)年度 年間授業計画									
教科・科目		理科 化学			2 単位				
対象学年・組		2年生 理系(含む特進)			理系 必履修				
教科書(出版社)		化学Vol.1理論編(東京書籍)							
学習目標【観点別】		<p>○実験を通じ、科学的な概念や原理・法則を理解し、自然観を育成する【知識及び技能】</p> <p>○グループ学習等を通じ、論理的思考や説明能力を養う【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>○身近な現象に疑問を持ち、主体的に探究する態度を養う【学びに向かう力、人間性等】</p>							
学期	予 定 時 数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態		
1	前半	12 第1章 物質の状態と平衡	1節 状態変化 2節 気体の性質	<ul style="list-style-type: none"> 状態変化に必要なエネルギーの計算を理解する。 物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連させて理解する。 公式を使って圧力、体積などを求める。 	○	○	○		
	後半	12	3節 固体の構造 4節 溶液	<ul style="list-style-type: none"> 状態変化に必要なエネルギーの計算を理解する。 物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連させて理解する。 公式を使って圧力、体積などを求める。 	○	○	○		
2	前半	14 第2章 物質の変化と平衡	1節 化学反応とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 濃度、温度、圧力体積との関係を理解する。 触媒と反応速度の関係について理解する。 ルシャトリエの原理で反応の進行方向を推理する。 	○	○	○		
	後半	14	2節 反応の速さとしくみ 3節 化学平衡	<ul style="list-style-type: none"> 濃度、温度、圧力体積との関係を理解する。 触媒と反応速度の関係について理解する。 ルシャトリエの原理で反応の進行方向を推理する。 	○	○	○		
3	18	第3章 無機物質	1節 周期表 2節 非金属元素 3節 金属元素 4節 無機物質と人間生活	<ul style="list-style-type: none"> 周期表と各元素の性質 典型元素と遷移元素の特徴 金属イオンの反応性について着目し、理解する。 	○	○	○		
評価の観点(評価基準)		<p>○授業や実験、観察について、主体的に取り組んでいるか。</p> <p>○化学的なものの見方・考え方を身に付けられたか。</p> <p>○自然現象を自分の言葉で論理的に人に伝えることができるか。</p>							
評価の方法		定期考査、授業態度、提出物等により評価							
学習の手引き		<p>○日々の学習を大切にし、授業に積極的に参加すること。</p> <p>○身の周りの様々な事象に対し疑問を持ち、科学的な見方や考え方で事象を捉えること。</p> <p>○仮説を立てながら観察・実験に主体的に参加し、探究する態度を持つこと。</p>							
授業担当者		大原 聡							

令和8(2026)年度 年間授業計画									
教科・科目		保健体育		体育		3		単位	
対象学年・組		2年生				必履修			
教科書 (出版社)									
学習目標 【観点別】		<p>○各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】</p> <p>○運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>○生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】</p>							
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態		
1	前半	18	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動 ・陸上競技 	<ul style="list-style-type: none"> ・体ほぐしの運動 ・体力を高めるための運動 ・短距離走 	<ul style="list-style-type: none"> ・体づくり運動の行い方、体力の構成要素、実生活への取り入れ方を身に付ける。 ・合理的な動きと比較して成果や改善すべきポイントを発見し、仲間に伝える。 ・主体的に取り組む。 	○	○	○	
	後半	18	<ul style="list-style-type: none"> ・球技 ・武道 ・ダンス 	(男子) <ul style="list-style-type: none"> ・バレーボール ・ソフトボール ・柔道 (女子) <ul style="list-style-type: none"> ・バレーボール ・アルティメット ・ダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・各運動種目の技能や動きを身に付ける ・自己や仲間の課題、練習方法について伝える。 ・自己の体力、体調に応じた適切な練習を選択したり、工夫をして取り組む。 ・互いに助け合い教え合おうとする。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にする。 	○	○	○	
2	前半	21	<ul style="list-style-type: none"> ・球技 ・武道 ・ダンス 	(男子) <ul style="list-style-type: none"> ・バレーボール ・ソフトボール ・柔道 (女子) <ul style="list-style-type: none"> ・バレーボール ・アルティメット ・ダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・各運動種目の技能や動きを身に付ける ・自己や仲間の課題、練習方法について伝える。 ・自己の体力、体調に応じた適切な練習を選択したり、工夫をして取り組む。 ・互いに助け合い教え合おうとする。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にする。 	○	○	○	
	後半	21	<ul style="list-style-type: none"> ・球技 ・武道 ・ダンス 	(男子) <ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール ・サッカー ・柔道 (女子) <ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール ・フットサル ・ダンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・各運動種目の技能や動きを身に付ける ・自己や仲間の課題、練習方法について伝える。 ・自己の体力、体調に応じた適切な練習を選択したり、工夫をして取り組む。 ・互いに助け合い教え合おうとする。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にする。 	○	○	○	
3	27	<ul style="list-style-type: none"> ・陸上競技 ・球技 	(男子) <ul style="list-style-type: none"> ・長距離走 ・サッカー／バスケットボール (女子) <ul style="list-style-type: none"> ・長距離走 ・バスケットボール／バレーボール 	<ul style="list-style-type: none"> ・各運動種目の技能や動きを身に付ける ・自己や仲間の課題、練習方法について伝える。 ・自己の体力、体調に応じた適切な練習を選択したり、工夫をして取り組む。 ・互いに助け合い教え合おうとする。 ・ルールやマナーを守り、フェアプレイを大切にする。 	○	○	○		
評価の観点 (評価基準)	<ul style="list-style-type: none"> ○授業に主体的、積極的に取り組んでいるか。 ○体力の高め方、運動の技能を身に付けられたか。 ○仲間と協力をし、健康・安全に留意して取り組んでいるか。 								
評価の方法	出席状況、授業態度、授業の記録、実技テスト等により総合的に評価する。								
学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> ○自己や仲間の課題を発見し、運動の取り組み方や練習方法を工夫する。 ○仲間と協力をし、自己の役割を自覚し、活動を振り返る。 								
授業担当者	(男子) 鈴島陽介、伊藤邦治、古里慎 (女子) 鈴島陽介、古里慎、大川佳奈								

令和8(2026)年度 年間授業計画									
教科・科目		保健体育		保健		1		単位	
対象学年・組		2年生				必履修			
教科書(出版社)		現代高等保健体育(大修館書店)				現代高等保健体育保健ノート			
学習目標【観点別】		(1) 健康・安全に関する基本的な知識を理解し、総合的な認識を高める。 (2) 人間諸活動が自然を破壊し、人間の健康に悪影響を与えていることを理解する。 (3) 生涯を通じて健康で生き甲斐のある人生が過ごせる意識と実践の基本を身に付ける。							
学期	予定時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態		
1	前半	###	生涯を通じる健康	01ライフステージと健康	生涯の各段階で様々な健康問題に出会うことを理解するとともに、思春期である今の心や体をよく理解し、適切に行動する。 生涯の各段階で様々な健康問題に出会うことを理解するとともに、家族計画や中高年期を健やかに過ごすための取り組みをよく理解し、適切に行動する。	○	○	○	
				02思春期と健康					
				03性意識と性行動の選択					
				04妊娠・出産と健康					
				05避妊法と人工妊娠中絶					
	後半	###	生涯を通じる健康	06結婚生活と健康					
				07中高年と健康					
				08働くことと健康					
				09労働災害と健康					
				10健康的な職業生活					
2	前半	7	健康を支える環境づくり	01大気汚染と健康	健康にかかわる環境について学ぶことは、健康な生活を営むために、そして社会全体の健康のためにも大切なことを理解する。中高年期においていずれであうであろう健康問題や、それぞれの段階で必要となる保健・医療機関の活用方法について学ぶことで、生涯を通して健康を意識する能力を身に付ける。	○	○	○	
				02水質汚濁、土壌汚染と健康					
				03環境と健康にかかわる対策					
				04ごみの処理と上下水道の整備					
	後半	7	健康を支える環境づくり	05食品の安全性					
				06食品衛生にかかわる活動					
				07保健サービスとその活用					
3	9	健康を支える環境づくり	08医療サービスとその活用						
			09医薬品の制度とその活用						
			10さまざまな保健活動や社会						
			11健康に関する環境づくりと						
評価の観点	個人成績を評価の基準とし、授業を受ける態度、取り組みを評価の参考にする								
評価の方法	・学期末に考査の実施(3回)の個人成績を反映する								
学習の手引き	グループ活動の中において、テーマに応じた話し合いを積極的に行い、教材に関心を持つ								
授業担当者	鈴島陽介、糟谷瞭、伊藤邦治								

令和8(2026)年度		年間授業計画										
教科・科目	芸術	音楽 I	2 単位									
対象学年・組	2 年生		必修選択									
教科書 (出版社)	MOUSA I (教育芸術社)											
学習目標 【観点別】	1. 発声や呼吸に気をつけて、作品を理解しながら表情豊かに歌唱することができるようになる。 2. 器楽（ピアノ）の演奏法を習得し、両手でピアノを弾けるようになる。 3. 幅広い音楽に触れ、生徒の音楽に対する興味・関心を深め、音楽を愛好する心情を育てる。 4. 市の内容を理解し、簡単な創作ができるようになる。											
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	歌	器	創	鑑	知	思	態	
1	前半	12	歌唱 器楽（ピアノ）	・翼をください、花等 ・メリーさんのひつじ、こぎつね等	発声や呼吸を意識して、表情豊かに歌唱することができる。 両手で簡単な演奏ができる	○	○			○	○	○
	後半	12	歌唱 器楽（ピアノ）	・小さな空、夏の思い出等 ・きらきら星、アヴィニヨンの橋の上等	発声や呼吸を意識して、表情豊かに歌唱することができる。 両手で簡単な演奏ができる	○	○			○	○	○
2	前半	14	歌唱 創作	・オーソレミオ、誰も寝てはならぬ等 ・単旋律の創作	発声や呼吸を意識して、表情豊かに歌唱することができる。 短い詩に、単旋律を作る。	○		○		○	○	○
	後半	14	歌唱 創作	・合唱：校歌・懐かしきケンタッキーの我が家等 ・単旋律の創作	発声や呼吸を意識して、表情豊かに歌唱することができる。 短い詩に、単旋律を作る。	○		○		○	○	○
3	18	歌唱 鑑賞	・この道等 ・様々な管弦楽曲 ・ピアノ曲の変遷	発声や呼吸を意識して、表情豊かに歌唱することができる。 年代や作曲家による楽曲の特徴を味わうことができる。	○			○	○	○	○	
評価の観点 (評価基準)	主体的な授業態度で、周りと協力し音楽を楽しむことができているか。											
評価の方法	実技試験、提出物、小テスト、授業態度											
学習の手引き	実技教科なので、活動する時間が多くなってきます。 授業への出席や授業態度はもちろん、意欲的に活動に参加しましょう。											
授業担当者	仲田 賀一											

令和8(2026)年度 年間授業計画											
教科・科目		芸術 書道 I		2 単位							
対象学年・組		2年生		必修選択							
教科書(出版社)		新編 書道 I (大修館)									
学習目標【観点別】		1 基本的な筆使いを身に付け、古典的な知識と技能を習得する。 2 芸術に対する興味と関心を深める。									
学期	予定時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	漢 仮	漢	仮	鑑	知	思	態
1	前半	12 ペン字演習 楷書の学習	・ペン習字の基礎 ・九成宮醜泉銘	楷書の基本点画を学ぶ。字形の整齐に留意する。部首や筆順を学ぶ。背勢の字形の特徴に留意する。楷法の極則と評される鋭い筆法と端正な字形に留意する。	○	○	○	○	○	○	○
	後半	12 楷書の学習 作品の制作	・雁塔聖教序 ・孔子廟堂碑	起筆の露鋒と藏鋒を習得する。線は太細、抑揚に留意する。北魏の筆遣いの特徴を捉える。		○		○	○	○	○
2	前半	14 行書の学習	・蘭亭序 ・風信帖	行書の成立・楷書と行書の筆使いの違いを理解する。 行書の成立・楷書と行書の筆使いの違いを理解する。		○		○	○	○	○
	後半	14 行書の学習	・祭姪稿	行書の成立・楷書と行書の筆使いの違いを理解する。		○		○	○	○	○
3	18	仮名の学習	・平仮名・変体仮名 ・蓬莱切	小筆による技法を習得する。				○	○	○	○
評価の観点(評価基準)	毎時間の提出物、授業態度、忘れ物の有無										
評価の方法	提出物の評価、授業態度、忘れ物										
学習の手引き	提出作品については古典の特徴を表現できたか。 また創作作品では自分の意図した表現ができたか。										
授業担当者	松岡 久恵・伊藤 忠綱										

令和8(2026)年度		年間授業計画									
教科・科目	芸術	美術 I	2 単位								
対象学年・組	2 年生		必修選択								
教科書 (出版社)	高校生の美術 1 (日本文教出版)										
学習目標 【観点別】	<ul style="list-style-type: none"> ・美術、工芸の創造活動を通じて美的感覚を豊かにし、表現と鑑賞の能力を伸ばすとともに芸術を愛好する心情を養う。 ・美術の基礎的活動を通じて、対象を正しくとらえる力や情報の処理能力、表現の多様性を身に着ける。 ・鑑賞活動を通じて、自己及び他者の表現活動を受け入れあい、表現の多様性と可能性について考える。 										
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	絵 彫	デ	映	鑑	知	思	態
1	前半	12	オリエンテーション 文字を使ったデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・授業規律等の確認 ・アクリル絵の具の特性と使用方法について理解する。 ・鉛筆デッサンとクロッキーの基礎を学び、画材としての鉛筆の表現の可能性に関する理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○美術室使用についてのルールや、制作しやすい環境について理解する。 ○デザインの課題について正しく理解し、自分の表現に結びつける過程を楽しめるようにする。 ○作品鑑賞会を通じて、自分の作品について解説する能力を伸ばす。 	○	○	○	○	○	○
	後半	12	顔、手のデッサン	<ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆デッサンとクロッキーの基礎を学び、画材としての鉛筆の表現の可能性に関する理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○デッサンの学習によって学ぶことの意味を考えながら、制作する喜びを感じられるようにする。 ○他者の作品鑑賞を通じて、共感と相互理解の大切さを理解できるようにする。 	○		○	○	○	○
2	前半	14	お菓子のデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に触れるデザインについて意識し、企画、制作の手順を知る。 ・平面デザインと立体デザインの基礎課題を通じて、画材や技法について理解を深める。 		○	○	○	○	○	○
	後半	14	静物デッサン	<ul style="list-style-type: none"> ・対象物を観察し、モチーフの美しさを感じる。 ・素描の基礎的技術を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○デッサンの学習によって学ぶことの意味を考えながら、制作する喜びを感じられるようにする。 ○他者の作品鑑賞を通じて、共感と相互理解の大切さを理解できるようにする。 	○	○	○	○	○	○
3	18	モニュメントの模型	<ul style="list-style-type: none"> ・モニュメントの意味を理解し、設置場所に最適な立体作品を企画する。 ・紙立体の制作を安全、丁寧に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○モニュメントについての理解を深め、生活環境と立体作品の関係について考察を深められるようにする。 ○紙の性質を理解し、特性を生かした作業が丁寧に進められるようにする。 	○	○	○	○	○	○	○
評価の観点 (評価基準)	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に授業に参加し、表現と鑑賞の能力を伸ばせたか。 ・各単元の目標を達成したか、さらに表現を追求できたか。客観的に自己評価できたか。 										
評価の方法	出席状況・授業態度・ワークシートの内容・課題の完成度・計画性とその達成状況・試行錯誤の経過・後かたづけや整理整頓を行い、よい制作環境をつくる姿勢等										
学習の手引き	<ul style="list-style-type: none"> ・学習に使用する道具(文房具から工具まで)を正しく安全に使えること。 ・自分の作品を大切にすること。毎時間新しい技術を身につけ、発見のある教科です。 ・試行錯誤する体験を数多く行います。忍耐と努力から傑作を生み出す喜びを味わいましょう。 										
授業担当者	邑橋裕之										

令和8(2026)年度 年間授業計画

教科・科目		外国語 英語コミュニケーションⅡ		4 単位								
対象学年・組		2年生		必履修								
教科書(出版社)		Grove English Communication II										
学習目標【観点別】		<p>基本的な語彙や文法を理解し、文章の内容を読み取ることができる。</p> <p>情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えることができる。</p> <p>積極的にコミュニケーションを取り、異文化理解を深める。</p>										
学期	予定時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	開	読	話 や	話 発	書	知	思	態
1	前半	24	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。	"LESSON 1 Breakfast Around the World" "LESSON 2 What Makes You a Good Street Dancer?"	①語彙や文法の知識をもとに朝食についての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとにダンスの役割についての英文を読み、要点や考えを伝えている。	○	○	○	○	○	○	○
	後半	24	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。	"LESSON 3 Volunteering and Music Bring Us Together" "LESSON 4 Zoos — Roles and Challenges"	①語彙や文法の知識をもとにボランティア活動についての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとに動物園の役割についての英文を読み、要点や考えを伝えている。	○	○	○	○	○	○	○
2	前半	28	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。	"LESSON 5 Paper Can Change the Future" "LESSON 6 Our Advanced Network Society"	①語彙や文法の知識をもとに紙の資源についての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとにネット社会についての英文を読み、要点や考えを伝えている。	○	○	○	○	○	○	○
	後半	28	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。	"LESSON 7 Connecting with People" "LESSON 8 Practice Makes Perfect: A Japanese Baker's	①語彙や文法の知識をもとに人とのつながりについての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとに練習することについての英文を読み、要点や考えを伝えている。	○	○	○	○	○	○	○
3	36	語彙・文法・本文の内容を理解させ、情報や自分の考えを伝える力を身につけさせる。	"LESSON 9 The World Without Honeybees" "LESSON 10 The Forth Bridge: An Iconic Landmark in Scotland"	①語彙や文法の知識をもとにミツバチについての英文を読み、要点や考えを伝えている。 ②語彙や文法の知識をもとに橋についての英文を読み、要点や考えを伝えている。	○	○	○	○	○	○	○	○
評価の観点(評価基準)		定期試験やパフォーマンステストを中心に評価する。その他、授業への参加度や提出物、授業内試験も考慮する。										
評価の方法		定期試験、パフォーマンステスト(ライティング・スピーキング・リスニング)、提出物、英単語テスト										
学習の手引き		教科書、参考書、ワークブック、JET・ALTとのTeam Teachingにより指導										
授業担当者		岡本 愛美・北原 理史 他										

令和8(2026)年度 年間授業計画															
教科・科目		外国語 論理・表現Ⅱ			2 単位										
対象学年・組		2年生(含む特進)			必履修										
教科書(出版社)		be English Logic and Expression II Clear (い いずな書店)													
学習目標【観点別】		<p>習得すべき知識や重要な概念等を理解している。それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしている。</p> <p>知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けている。</p> <p>知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしている。</p>													
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容		評価規準			聞	読	話 や	話 発	書	知	思	態
1	前半	12	現在形・過去形・未来 現在完了形・過去完了 形 助動詞 名詞句・名 詞節	L1 Your Interests 興味のある ことについて 話す	英語を論理的に理解し正しく用いて 表現することができる。 意欲的にコミュニケーションを行 い、自分のことを伝え、相手の言う ことを理解しようとしている。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	L2 Your Daily Life 日常生活を 紹介する														
L3 Your School Life 学校生活に ついて話す															
後半	12	形容詞 形容詞句 形容詞節	L4 Media Literacy メディアリテ ラシー	英語を論理的に理解し正しく用いて 表現することができる。 意欲的にコミュニケーションを行 い、自分のことを伝え、相手の言う ことを理解しようとしている。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
L5 Helping Others ボランティア 活動															
L6 Introducing Your Town 地域活性レ ポート															
2	前半	14	副詞 副詞句 副詞節	L7 Languages of the World 世界の言語	英語を論理的に理解し正しく用いて 表現することができる。 意欲的にコミュニケーションを行 い、自分のことを伝え、相手の言う ことを理解しようとしている。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	L8 Imagining the Future 想像力をはた らかせる														
L9 Happiness and Stress 新幸福・スト レス															
後半	14	比較 仮定法過去形 仮定法過去完了形 接続詞	L10 Comparing Countries 世界のデー タを比較する	英語を論理的に理解し正しく用いて 表現することができる。 意欲的にコミュニケーションを行 い、自分のことを伝え、相手の言う ことを理解しようとしている。	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
L11 Cultural Diversity 文化の多様性															
L12 Japanese Customs 日本の文化															
3	18	使役動詞 知覚動詞 無生物主語	L13 Population Issues 人口問題	英語を論理的に理解し正しく用いて 表現することができる。 意欲的にコミュニケーションを行 い、自分のことを伝え、相手の言う ことを理解しようとしている。	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
L14 Rights and Equality 人権と平等															
L15 Think Globally, Act Locally 平和な世界を 築くために															
評価の観点 (評価基準)	定期試験やパフォーマンステストを中心に評価する。 その他、授業への参加度や提出物、授業内試験も考慮する。														
評価の方法	定期試験、パフォーマンステスト(ライティング・スピーキング・リスニング)、提出物、小テスト														
学習の手引き	教科書、参考書、ワークブック、JETとのTeam Teachingにより指導														
授業担当者	岡本愛美、稲垣浩二、北原理史、本田愛香 他														

令和8(2026)年度		年間授業計画					
教科・科目	家庭	家庭基礎	2 単位				
対象学年・組	2年生		必修				
教科書 (出版社)	Survive!! 高等学校 家庭基礎 (教育図書)						
学習目標 【観点別】	<p>家庭基礎では、健康で安全に快適な毎日を過ごし、自らの生活に役立つ知識や技術を身につけ、「自分らしい生活を作り出せる」ことを学習目標としている。</p> <p>また、自分の将来・人生を見つめ、親や高齢者として生きる上で、必要な役割等についても学習し、共生とは何か、エンカルの生活とは何かを考える力を身につける。</p> <p>実習においては、生活に必要な最低限の知識・技術の習得はもとより、身の回りの物事を効率的に進めるための段取り力を身につける。</p>						
学期	予定 時数	単元 具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態
1	前半	12 1章 消費生活・環境 2章 衣生活	成年年齢の引き下げ/契約と消費者トラブル/消費者の権利と責任/生活費と家計/これからの消費生活/人と衣服/衣服計画・表示・成り立ち/基礎縫い実習	家計の仕組みと経済の関係性、契約など生活に必要な知識を身につける。電子マネー、クレジット、ローンなど決済の多様化について学習し、多重債務などのリスクについても理解する。循環型社会、持続可能な社会に担い手としての知識と態度を身につける。	○	○	○
	後半	12 4章 住生活 6章 高齢期の生活	人と住まい/ライフスタイルと住まい/安全な住まい/衛生的な住まい/これからの住生活/高齢期を理解する/高齢者の生活を支える仕組み	住居の機能・管理について理解する。多様な住まい方や、環境との共生について理解を深め、考える。ライフサイクルの一部として高齢者の生き方を考え、理解を深める。	○	○	○
2	前半	14 7章 共生社会 5章 子どもの保育	共に生き、支え合う社会/こどもの発達/こどもの遊び/こどもの生活・大人の役割/子育ての環境、子育て支援安全な取り扱い	社会保障について学習し、共に生きる社会を作り出せるようにする。子どもの基礎的な知識を身につけ、親としての姿勢を考えさせる。現代の子育て環境や地域社会との関わりに関心をもち、社会の一員としての態度を身につける。	○	○	○
	後半	14 3章 食生活	人と食生活/食品と栄養素/食品の選択・保存、安全な取り扱い/献立作成/調理実習/これからの食生活	栄養や身体を理解するとともに、自己の食生活を振り返り、改善の手だてを考える。経済・環境・伝統文化等の社会的視点から、食生活のあり方に関心をもち、安全で衛生的な食生活を営む態度を身につける。調理実習を通して、基礎的な調理技術を習得するとともに、日常生活の中で活用できる力を身につける。	○	○	○
3	18	8章 青年期・家族	青年期を生きる/現代の家族/家庭生活の成り立ち/家族と法律	社会の中で自分のあり方について、客観的に見つめ、自己理解を深めて、自らの人生を考える。現代の多様な家族の特徴を知り、将来自分が作りたい家族について考える。また、家族関係のより良いあり方についても考えられる力を身につける。	○	○	○
評価の観点 (評価基準)	本科目の学習目標達成に向けて、知識・技術が習得できたか、意欲的で実践的な態度で取り組めたか、協働において他者への配慮や協力する姿勢で取り組めたか。						
評価の方法	定期考査・作品や提出物などの課題・授業への取り組む姿勢等を総合的に判断し、評価する。						
学習の手引き	互いに学びあって自己の能力を引き出せるようにする。教科書、資料集などは毎時間用意し、教材・教具の自己管理をする。班での実習は互いに協力し合って作業する。						
授業担当者	相馬 エリカ						